

No. 51
2022/10/1

香川県立三本松高等学校 同窓会

大中三高会報



創立百二十周年記念式典：本校体育館

目次

ごあいさつ	2
創立百二十周年記念式典・講演会	3
120年の歩み	4
理事会	6
支部だより	8
叙勲、寄贈	11
三高生の活動	11
進路状況	15
事務局より	16



地域とともに 更なる発展へ

会長 名 淵 薫
(三高24回卒)

ロシアのウクライナ侵攻、台湾情勢、物価高、オミクロン株の蔓延等々で、社会経済情勢は先行きも不透明感を拭えない状況が続いています。

会員の皆様には日頃より同窓会活動に、ご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて東讃地区の少子化による生徒数の減少に伴い、東讃4校の統廃合が検討され、母校は伝統を生かし、地域のニーズに応えるよう、単独で存続することとなりましたが、さぬき市の志度、津田、石田の3校を統合した新設校が、造田地区に2028年4月開校する予定となりました。新設校は、普通、農、工、商、家庭の5学科、8クラス規模で、学校と地域が一体となったコンソーシアムを設け、地域活性化の核となる学校を目指す、との方針が県教育委員会から発表がありました。

今後、更なる生徒数の減少が予測され、母校も生徒数を確保するため、文武両面において、レベルアップが必要になると考えられ、学校もいろいろな対策を行っていただいております。その中で、「食堂から地域を元気に」とのスローガンの下、「三高みんなの食堂プロジェクト」が2020年9月から実施され、本年8月に「高校生ボランティア・アワード2022全国大会：東京都」において、同プロジェクトが会長賞の「さだまさし賞」を受賞しました。大変喜ばしいことで、これを機にもっと地域とのコンソーシアムを通じた絆が更に深くなることを期待しております。

また、地域とともにある三本松高校を広く支援していただくという目的で、本年から卒業生はもとより、卒業生以外の個人、企業、団体等により一層支えて頂くために、「香川県立三本松高等学校教育後援基金」を創設し、各種事業等も順調に推移しています。

今後も統合高校の新設をはじめ、母校を取り巻く環境も大きく変化していくことが予測されますので、会員の皆様にはより一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。



新しい時代を 担う人が育つ三高

校長 泉 谷 俊 郎

大中三高会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対して心のこもった応援とご支援をいただきありがとうございます。あらためて深く感謝申し上げます。

本校は、輝かしい歴史と伝統を礎に、また、地域からの愛情と期待を受けて新たな時代に活躍する人を育てていく学校としてさらなる歩みを始めているところです。

高校生のときも社会に出てからも心から三高で学べてよかったと思えるよう、三高ならではの教育に取り組んでいます。従来からの良さを継承しつつその上に、生徒の主体性を高め、社会で活かせる多くの力を身につけるための新たな教育活動を行っており、多くの方のご支援をいただきながら次第に目に見える成果となってきています。

「虎丸ゼミ」「三高みんなの食堂プロジェクト」などを中心に生徒たちは主体的に活動して学びを深めています。これらの活動は、三高だからこそできる教育のひとつとして、多様な力を伸ばす充実した教育へとつながっています。今後は、さらに生徒たちが積極的に地域と係わりながらその良さを実感し、社会人としての自覚と誇りをもつことをめざしています。そして、多様な力を身につけてどのような状況でも力を発揮できる新たな時代を担う人として育つための教育活動を進めていきます。

地域の生徒数が減少している状況ですが、中学生にとっても魅力ある高校となるよう教育の質を高めており、昨年度より、全国からの生徒募集も実施しています。他の地域からの生徒が新たな視点や文化を持ち込んでくれることにも期待していますので、同窓会の皆様にも募集活動等にご協力いただけましたら幸いです。

また、教育後援基金（後述）として生徒が体験活動を中心に多様な経験を積むための教育活動へのご支援もお願いしているところです。学校だけでは難しいところでも同窓会の皆様をはじめ地域の多くの方のご支援によってより良い教育環境が整います。

今後ともご理解とご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

創立百二十周年記念式典および講演会

■ 創立百二十周年記念式典



令和3年11月6日(土)、創立百二十周年記念式典が、在校生 396 名、教職員 47 名の出席のもと開催されました。令和 2 年 11 月に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一年間延期となり、校内(在校生、教職員)のみでの開催となりました。

はじめに、泉谷校長より、この百二十周年を三本松高校の偉大なる歴史を礎とした新たな出発点として、全校生徒職員、地域の方々とも力を合わせて今後のさらなる飛躍に向けて進んでいくことへの決意が込められた式辞がありました。

次に、生徒代表古川晴登さんより、全校生徒一人ひとりが主体的に行動し、三本松高校のより良い伝統を築いていくとの言葉がありました。

また、大中三高会名淵会長より、多くの著名人を輩出した母校の歴史や南原先生の言葉の紹介、母校の新たな伝統を築いていってくれることへの期待、記念式典挙行に対する感謝の意など、同窓会を代表しての祝辞が述べられました。

さらに、創立百二十周年を記念し、大中三高会より寄贈した「校歌レリーフ」(第1体育館に設置)の基になった書の贈呈式が行われ、書家の藤井翔夢さん(三高 39 回卒)より、書が泉谷校長へ寄贈されました。その後、藤井さんより、在校生に向けて、ご自身の高校時代から現在までの経験などを踏まえ、何事にもチャレンジして、自分の夢を叶える努力をして欲しいとの話がありました。

■ 記念講演会

講演者 諏訪中央病院名誉院長

鎌田 實 氏

演 題

「おもしろい人生を生きるために」

鎌田先生は前日九州での仕事からの移動で、講演直前に学校に到着されました。先生は事前にお送りしていた創立百二十周年記念誌「FROM TORAMARU」を取り出し、「この坂をのぼろう～未来へ～」(p81～83掲載)の歌は誰が書いたのと。和田浩 元校長が書かれた「この坂をのぼろう」(p22掲載)に対する返歌であり、生徒が書いたことをお伝えすると「なかなか良いですね」と。

そんなやり取りが校長室であった後、講演の時間となりました。前半は、野球部、学業、虎丸登山など、120年の歴史の中で先輩たちから受け継いで来た精神がこの学校には宿っていると言う話から始まり、自分の人生やホスピス等での経験から、面白い人生を生きるためには、現実をしっかりと見て「自己決定」することが大切であること。また、本当に良い人生を歩むためには、自分だけを大事にするのではなく、1%でも良いから誰かの為に生きてみる。などの話がありました。後半はバックグラウンド音楽を流し、チェコ、パレスチナ、イラク難民キャンプ、 cholera ノーベリ(チェルノブイリ)などでの医療支援の様子とエピソードを写真とともに話されました。世界では理不尽なことが多く起っているが、私たちは、現実をしっかりと見て考え、乗り越える力を持たないといけないと力説されました。

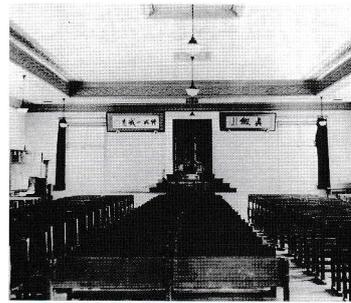
最後に先生は「今日、頭に残ったことを実践してみてください。20年後くらいに、あの時に鎌田の話聞き、ちょっと人生が変わったな。と思っていただければ僕はちょっとうれしいです。」と締めくくりました。



三本松高校

1900 香川県立高松中学校大川分校として開校

1903 香川県立大川中学校と改称



講堂内部



正門横のユーカリ

1925 軍事教練開始

1928 校歌制定（作詞：石森延男、作曲：小比賀虎雄）

1934 第1回虎丸登山競争実施 25m プール竣工

1941 太平洋戦争勃発

1944 5年生尼崎へ、3、4年生岡山玉造船所へ学徒動員

1945 終戦

1900

(明治33年)

1910

(明治43年)

1920

(大正10年)

1930

(昭和5年)

1940

(昭和15年)

1950

(昭和25年)

1960

(昭和35年)

1947 南原繁先生「祖国復興への道」を本校講堂で講演

1948 男女共学の新制高校として出発
(大川高等学校)

定時制課程及び引田と丹生に分校設置

1951 引田分校校舎落成

1952 農業科、家庭科設置

1953 創立50周年記念式典 体育館落成



引田分校 新築落成



1964年 旧校舎と建設中の新校舎

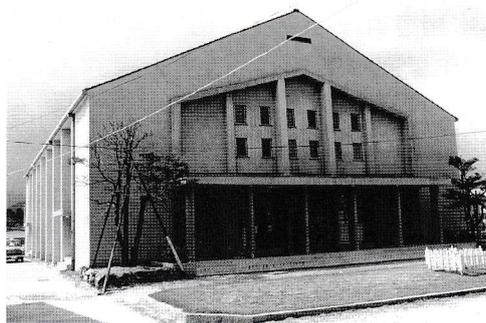
1963 新校舎移転工事始まる

1964 現在の校訓「友愛 誠実 剛健」制定

1966 新校舎完成 全面移転完了

1968 50mプール竣工

1969 理数科を設置する



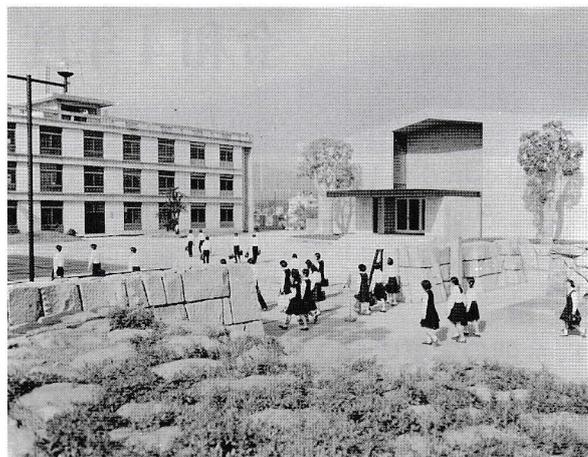
旧校舎から移築された体育館



新校舎完成

120年の歩み

- 1970 大阪万国博覧会
新体育館落成
- 1971 創立 70 周年記念および体育館落成記念式典
南原繁先生「われらの歩んだ道」講演
- 1975 大中会館落成（1F 食堂、2F 図書館、3F 合宿所）
- 1977 引田分校創立 30 周年記念式典
- 1980 創立 80 周年記念行事
- 1983 中庭にケヤキを植樹、時習庭、虎北庭を築庭
第 1 回スキー研修実施
- 1984 第 66 回全国高校野球選手権大会に初出場
- 1985 雨天練習場落成
- 1988 全国植樹祭で学校林活動が受賞
- 1989 昭和天皇崩御 「平成」に改元
- 1990 90 周年記念事業で体育館の緞帳を新調
- 1993 野球部夏の甲子園に 2 回目出場
東四国国体開催される
- 1994 校訓碑建立
- 1996 推薦入試が初めて導入される



大川東高校の歩み

- 1984 香川県立大川東高等学校開校
- 1993 開校 10 周年記念式典
- 1998 環境デザイン科設置
- 2003 開校 20 周年記念式典
- 2007 香川県立大川東高等学校閉校

1970
(昭和 45 年)

1980
(昭和 55 年)

1990
(平成 2 年)

2000
(平成 12 年)

2010
(平成 22 年)

2020
(令和 2 年)

- 2000 創立百周年記念行事
南原実氏による記念講演会
NHK 交響楽団員による記念演奏会
- 2001 百周年記念館・図書館竣工
- 2003 スーパーサイエンスハイスクールに指定（～2012）
- 2005 野球部夏の甲子園に出場
普通科初の海外修学旅行（上海、北京）



創立百周年記念式典

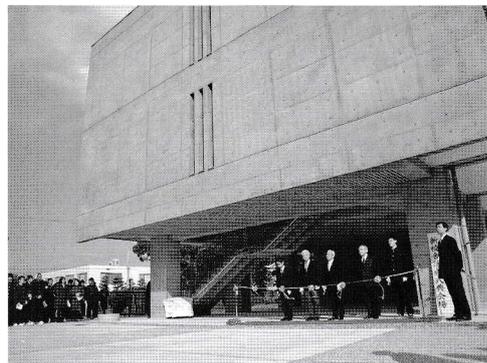


- 2006 騎進館（フェンシング場）落成
- 2010 「ほんまもん」除幕式
- 2011 甲矢館（弓道場）落成
- 2014 南原ウォークはじまる



南原ウォーク

- 2015 新校舎建のため仮校舎に移動
- 2017 新校舎落成
フェンシング部男子
全国優勝果たす
野球部夏の甲子園に 3 回目出場
ベスト 8 入り
- 2019 新体育館落成
- 2021 創立百二十周年記念式典



新校舎落成式

令和4年度 大中三高会理事会

令和4年6月11日（土）午後2時より東かがわ市交流プラザにて開催しました。69名の出席があり、議題にそって進められ、午後4時閉会しました。

議事は次のとおりです。全て承認可決されました。

議 題

1. 会則の変更について

大中三高会会則施行細則（入会金の金額及び納入）

変更前

第2条 会則第15条の入会金は、12,000円とし、母校在学中に一括又は分割して納入することができる。

変更後

第2条 会則第15条の入会金は、10,000円とし、母校在学中に一括又は分割して納入することができる。

※令和4年度の入会金より適用する。



令和4年度 大中三高会理事会（東かがわ市交流プラザ）

2. 令和3年度事業報告および会計報告について（監査報告）

令和3年度 大中三高会事業報告

令和3年

- 4月7日 入学式
 - 4月26日 創立記念日（虎丸登山）紅白餅配布
 - 5月6日 監査（三本松高校 小会議室）
 - 5月12日 会長・副会長会（三本松高校 校長室）8名
 - 7月15日 会長・副会長会（三本松高校 校長室）8名
 - 7月31日 理事会（東かがわ市交流プラザ）67名
 - 10月1日 大中三高会報「第50号」発行
17,500部（会員および生徒・教職員に配布）
 - 10月18日 会長・副会長会（三本松高校 校長室）8名
 - 11月6日 創立百二十周年式典および講演会（校内のみ）
校歌レリーフの書の贈呈式
「三高39回卒 藤井翔夢」
講演会
「講師：諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實」
（大中三高会総会および祝賀会は延期）
 - 12月3日 会長・副会長会（三本松高校 校長室）8名
 - 12月4日 南原ウォーク（生徒会主催）128名
 - 12月24日 奨学金の給付 21名
- 令和4年
- 3月2日 大中三高会入会式 新規入会 134名
 - 3月3日 卒業式
 - 3月30日 会長・副会長会（三本松高校 校長室）8名

※支部総会は中止

令和3年度 大中三高会会計収支決算書

（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

【収入の部】 (単位:円)

科 目	決算額	摘 要
1 入 会 金	1,598,000	
2 会 員 会 費	2,923,968	1,258件 「会費3,178,000円－ 手数料254,032円」
3 雑 収 入	1,041,289	寄付金、記念誌売上 預金利息
当年度収入合計	5,563,257	
前年度繰越金	5,428,492	令和2年度から繰越
合 計	10,991,749	

【支出の部】 (単位:円)

科 目	決算額	摘 要
1 会 議 費	37,880	会議経費
2 旅 費	0	
3 慶 弔 費	5,000	弔慰金
4 通 信 費	135,320	電話料金、切手類郵送料
5 事 務 費	236,984	事務管理費 学校案内印刷代 告知端末設置代 事務用品購入
6 行 事 費	162,619	創立記念紅白餅代 南原ウォーク経費 卒業証書ファイル代
7 会 報 発 行 費	2,631,835	会報第50号印刷及び発送費
8 学校施設整備費	71,500	旧制大中跡地樹木手入れ代
9 育 英 事 業 費	1,000,000	奨学金
10 南原文庫充実費	517,013	南原文庫・安倍文庫図書購入代
11 部 活 動 後 援 費	30,000	全国大会出場補助
12 予 備 費	500,000	教育後援基金へ振替
当年度支出合計	5,328,151	
次年度繰越金	5,663,598	令和4年度へ繰越
合 計	10,991,749	

3. 令和4年度事業計画および予算について

令和4年度 大中三高会事業計画

令和4年

- 4月7日 入学式
- 4月26日 創立記念日（虎丸登山は中止）
監査
- 5月11日 会長・副会長会
幹事会
- 5月14日 関西支部役員会（オンライン）
- 6月11日 理事会（東かがわ市交流プラザ）
- 6月29日 南原繁研究会（オンライン）
- 8月31日 各支部との情報交換会（オンライン）
- 10月1日 大中三高会報「第51号」発行
- 11月5日 創立百二十周年記念祝賀会
大中三高会総会
- 12月初旬 南原ウォーク
- 12月中旬 奨学金の支給

令和5年

- 3月1日 大中三高会入会式
- 3月2日 卒業式
- 3月中旬 幹事会

※支部総会は中止

令和4年度 大中三高会会計収支予算書

（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

【収入の部】

（単位：円）

科 目	決算額	摘 要
1 入 会 金	1,342,000	
2 会 員 会 費	2,500,000	
3 雑 収 入	402	預金利息
当年度収入合計	3,842,402	
前年度繰越金	5,663,598	令和3年度から繰越
合 計	9,506,000	

【支出の部】

（単位：円）

科 目	決算額	摘 要
1 会 議 費	200,000	会議経費
2 旅 費	350,000	支部総会等出席旅費
3 慶 弔 費	200,000	支部祝金、慶弔金等
4 通 信 費	250,000	電話料金等
5 事 務 費	400,000	事務管理費
6 行 事 費	1,000,000	創立記念紅白餅代 南原ウォーク経費 卒業証書ファイル代 学生行事参加費
7 会 報 発 行 費	800,000	会報第51号印刷及び発送費
8 学校施設整備費	1,500,000	樹木等管理費、資料館維持管理費
9 育 英 事 業 費	1,000,000	奨学金
10 南原文庫充実費	200,000	図書購入
11 部 活 動 後 援 費	500,000	全国・国際大会出場補助
12 雑 費	30,000	「香川県公立高等学校同窓会協議会」会費
13 予 備 費	50,000	
当年度支出合計	6,480,000	
次年度繰越金	3,026,000	令和5年度へ繰越
合 計	9,506,000	

4. 役員の改選について

退任

- 監査：楠原 公（三高14）→理事へ
- 幹事：鯛谷昌弘（三高17）→理事へ
- 佐野伸治（三高20）→理事へ

就任

- 監査：藤本博之（三高39）
- 理事：楠原 公（三高14）、鯛谷昌弘（三高17）
- 佐野伸治（三高20）
- 事務局長：三好輝徳（三高31）

5. 報告事項

令和3年度 香川県立三本松高等学校教育後援基金会計（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

【収入の部】

（単位：円）

費 目	金 額	摘 要
1 一般寄付	1,865,660	
2 卒業50周年 記念寄付	1,726,113	「卒業50周年記念会計」 より繰り入れ 三高23回卒有志一同
3 雑 収 入	100,005	コンテスト副賞、預金利息
合 計	3,691,778	

【支出の部】

（単位：円）

費 目	金 額	摘 要
1 特別活動費	159,468	「三高みんなの食堂 プロジェクト」活動費
2 部活動指導費	60,000	吹奏楽部指導費
3 学習支援費	0	
4 事 務 費	11,310	印鑑代、ゴム印代等
5 予 備 費	0	
合 計	230,778	

収入決算額 支出決算額 差引残額（次年度繰越）
3,691,778円 - 230,778円 = 3,461,000円

支部だより

東京支部

東京支部の現状について

支部長 永 峰 徹
(三高18回卒)

東京支部総会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、令和二年、三年の支部総会開催を中止としました。現状の東京地区の新型コロナウイルス感染症「第7波」の感染状況は、ピークを越したと思われませんが、目に見えて感染者が減少している状況ではありません。

楽しみにして頂いていた会員の皆様には申し訳ありませんが、今年（令和四年）の支部総会も中止を決定しました。

現状の東京支部は、支部総会の参加者が50名程度で現状維持の状況が続いています。この状況を少しでも改善するために、役員の皆様から種々提案を頂き、支部総会にも取り入れてきました。

取り組みの一部を紹介します。1、懇親会の内容充実（ふるさとクイズ、会員による講演会等）2、参加者のコミュニケーション改善（名札に出身町記入、テーブル席の工夫等）3、有志による支部の現状分析。4、若者の支部総会出席体験記を発行。5、日常的な情報交換（Facebookに大中三高会東京支部のコミュニティグループを作成）

以上のような取り組みですが、まだ不足している点も多く、皆様からのご指導をお待ちします。

来年は、ワクチンなどの感染対策が進み、正常な日常生活が戻ると思われます。支部総会を開催し、笑顔で再開したいと思っています。



支部会員による講演会の状況

関西支部

夏の甲子園大会ベスト8

支部長 谷 口 廣 重
(三高25回卒)

今年の東北勢初優勝の甲子園大会を見て5年前の思い出が蘇りました。母校が公立で唯一のベスト8に勝ち残り、全国に知れ渡った2017年夏のことです。

この甲子園大会に多くの卒業生が応援に駆け付け、三高と大中三高会は大いに盛り上がりました。その影響で関西支部の活動に関与する支部会員が増えました。しかし、その後は活動を支えて頂いた先輩方々が引退し、長引くコロナ禍もあり会員の相互交流など活動が停滞しているのが現状です。

この1年の活動としては会報(支部だより5号)を発行しました。役員会合はリモートを中心に情報交換や交流を行っており、5月には本部と意見交換をしました。また、大阪香川県人会と関西香川県高等学校同窓会連絡協議会(24校)は支部として会員になり、香川県や他高校との交流や情報共有をしています。県人会は本年5月に開催されて支部から3名参加しました。

支部の運営は一部の年代の善意と熱意で成り立っているのが現状ですが、全世代(全学年)で幅広く分担、協力することがあるべき姿とっております。これまで以上に本部と連携して誰もが参加し易い体制作りが急がれると考えております。

新型コロナの収束が未だ見通せませんが、同窓生が甲子園大会で味わった一体感を持って支部活動に気軽に参加し、集える時期が来ることを願っております。



関西支部のメールアドレスは
daityu.sanko.kansai@gmail.com

支 部 だ よ り

高松支部

高松支部総会3年連続中止と致しました。

支部長 軒 原 正 浩
(三高30回卒)

高松支部の会員並びに同窓生の皆様には、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

令和4年度の高松支部総会開催につきまして、新型コロナウイルス感染症による感染拡大を防止するために3年連続で誠に残念ながら中止とさせて頂きました。

高松支部では昨年の12月3日に三本松高校教育後援基金を通して三高みんなの食堂に対しまして寄附をさせて頂きましたが、今年8月に東京で開催された「高校生ボランティア・アワード2022」において「三高みんなの食堂プロジェクト」が、なんと会長賞の「さだまさし賞」を受賞されました。この事は部活動での活躍は元より、この様な地域と連携した高校生のボランティア活動の素晴らしさを広く一般に伝えることが、母校の存続に少なからず寄与できるものと思いますので、今後の活動の継続と発展に期待しております。

また、高松支部と致しましては、12月に開催予定の第9回南原ウォークに対しましても参加、協力をしてまいりたいと思っております。

まだまだコロナ禍が終息するまでには時間を要すると思いますが、来年度の支部総会開催の暁には、皆様と笑顔で再会できますことを、そして母校の校歌を合唱できますことを役員共々楽しみにしております。

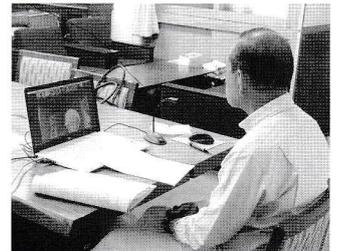


各支部との情報交換会

8月31日、各支部長と会長・副会長との情報交換会をオンラインで行いました。

はじめに、名瀬会長、泉谷校長が現況報告をし、その後、各支部長から支部の活動についてのご報告をいただきました。各支部とも支部総会の開催ができるようになった際には、多くの皆さんが集まれるよう呼びかけをしたいとのことでした。

今後も支部・本部が協力し合い、意見交換を密にして、三本松高校および大中三高会を盛り立てていくことを確認しました。

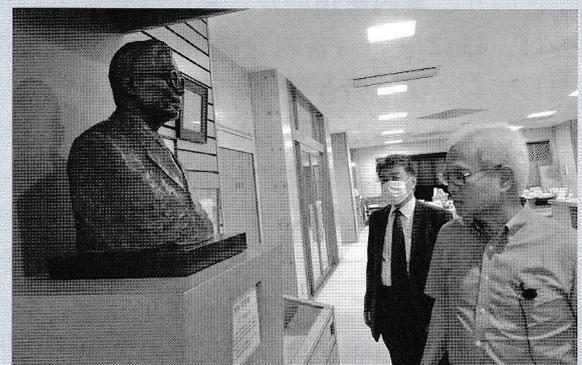


南原繁研究会報告

6月29日、南原繁研究会(代表 樋野興夫氏)がオンラインで開かれました。研究会では本校から初めての発表で、南原繁先生の記念展示が設置されている百周年記念館からの参加となりました。

会員の原彪氏が、パワーポイントを使って南原先生の少年時代の史料や、先生の三高での講演の説明をした後、記念館全体の紹介と南原先生の貴重な遺品などをカメラで撮影しながら解説をしました。

また、泉谷校長が母校を代表してあいさつされ、現在の学校の現況を報告しました。研究会の方々からは好評を得て、「ぜひ一度三本松高校を訪れて南原先生の展示を観てみたい」との感想をいただきました。

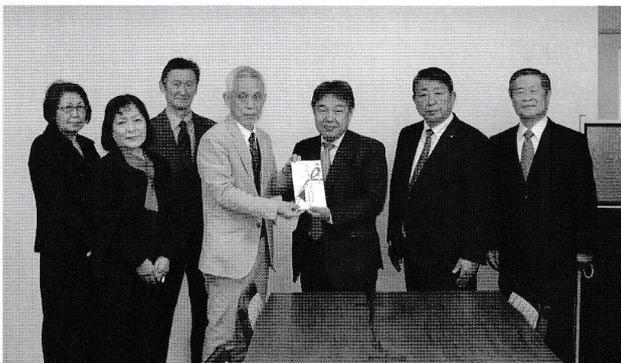


卒業50周年記念事業

伝統を引き継ぐ

友國 誠二 (三高23回卒)

3月10日、卒業50周年記念事業である母校への寄付を泉谷校長に手渡すことができ、4月には次年度へのバトンタッチもスムーズに終わられ、大先輩から連綿と続くこの事業に一つの区切りをつけられたことに、ほっとしている。近隣の、いや全国の高校で、ある年度の卒業生が母校に寄付をする、というのはよくある話ではある。それが各学年に継承されていく、というのは寡聞にして知らない。これが三高らしさだ、というそれまでだが、何故続いているのだろうか。それは「母校愛と“そういう伝統”」ではないかと思うのだ。母校愛は誰しもある。香川県内には三高同等の、いやそれ以上の歴史を持つ高校もあるが、このようなことは簡単にまねられるものではないだろう。母校に対する思い入れと“そういう伝統”が必要なのだ。次年度も既にチームを立ち上げて、進めてくれているようである。この他校にはない素晴らしい伝統を後輩たちもずっと引き継いでもらいたいと願う。



先日、この事業に対する苦労話でも寄稿すれば、というご案内を頂いた。私には苦労というものは、ほぼ無い。各組合計15人に世話人を依頼しても、快く引き受けてくれ、彼らとの会合が楽しみであったのかもしれない、と思うくらいだ。残念なのは物故者が想像以上に多かったこと。卒業して50年、古希という言葉を思わずにいられない。また、学年合同同窓会の延期。コロナは私たちの友情にも水をさす。この会報が発行される頃には、開催されていることを願う。そして、最も難しかったのが個人情報。

住所掲載不可の人に案内状を出すべきなのか、不明な人の住所を知ってはいるが教えない、とか。世話人とは何なんだろう。

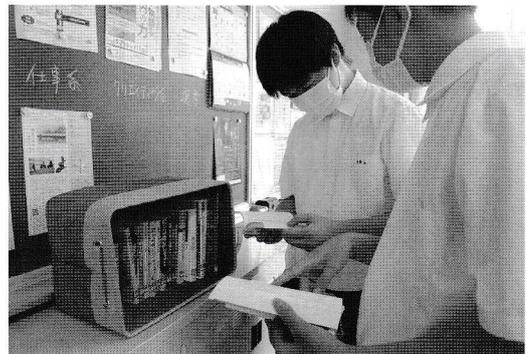
私たちの学年は、目標以上に寄付金が集まりました。このことを誇りに思うと同時に多くの寄付を頂いた同級生に感謝したいと思います。そして、頑張った事業を成功させた世話人の皆様、お疲れさまでした。

安倍道典文庫の設置

昨年、三高3回卒業の安倍道典様より、多額のご芳志をいただきました。

安倍様のご希望により、生徒・職員が選んだ図書を245冊購入いたしました。その中から20冊を各クラスに置き、図書室にいかなくても、空いた時間に本が読め、借りることもできるようにしました。

生徒には、本を身近に感じてもらい、新たな分野の本に出会ってほしいと願っております。



生ごみ処理機の寄贈

吉田飼料株式会社 吉田和彦様 (三高32回卒) と中国銀行様のご厚意により、生ごみ処理機をいただきました。SDGsの観点からも「三高みんなの食堂」で有効に活用させていただきます。



■叙勲・褒章

旭日小綬章「地方自治功労」

藤井 秀城（三高21回卒）

旭日双光章「高齢者功労」

桑島 達郎（三高3回卒）

旭日双光章「地方教育行政功労」

佐野 伸治（三高20回卒）

瑞宝中綬章「防衛功労」

高嶋 博視（三高22回卒）

瑞宝双光章「教育功労」

相谷 道男（三高3回卒）

正五位 瑞宝小授章

宮本 強（旧職員）

従六位 瑞宝双光章

和田 充弘（三高22回卒）

香川県教育功労

大社 健治（現職員）

土居 浩一（旧職員）

香川県教育文化功労「学校教育功労」

鏡原 寿吉（三高30回卒）

長年の功績をたたえ、心からお喜び申し上げます。

■寄贈

池下美代子（三高5回卒）＝佐藤東子（ペンネーム）

歌集『白風』、短歌会誌『清風』1月号～8月号

高嶋 博視（三高22回卒）

『THE HEART OF A SAILOR』-『武人の本懐』の英訳本

滝 直哉（三高33回卒）

『筐民のエルピス』1巻

岩倉泰一郎（三高19回卒）

『第25集 2021年度版 香川県詩集』

南原繁研究会

『南原繁における学問と政治』

東かがわ市歴史民俗資料館

『播磨灘を望む城 引田城に迫る』

(株) フクシン

絵本『しごとってなあに』

多田 昭（三高8回卒）

朝日新聞の切り抜き（昭和16年2月26日）

＝旧制大川中学校の紹介

岩藤 高志（三高24回卒）

写真「神風＝赤澤正一（大中35回卒）」

そのほか、枝川明敬氏（三高24回卒）より書籍のご寄贈をいただきました。誠にありがとうございました。

創立記念日（虎丸登山）

（令和4年4月26日）

創立記念日4月26日の恒例行事、虎丸登山は天候不良のため、中止となりました。

また、3年生が修学旅行中だったため、大中三高会が準備した記念の紅白餅は2回に分けて生徒に配りました。



第8回南原ウォーク

（令和3年12月4日）

南原ウォークは大中三回卒業で元東京大学総長の南原繁先生が毎日歩いた相生・三本松間の通学路を追体験しようという行事です。

今年で8回目となり、生徒会を中心とする生徒有志、職員その他、PTA会員、大中三高会員、東かがわロータリークラブの方々など総勢128名が参加しました。野球、女子ソフトテニス、柔道、フェンシング、剣道、バドミントン、サッカーの各部からも多くの生徒が参加し、10kmの距離を約3時間かけて歩きました。

午前9時に旧相生小学校跡地の南原先生の胸像前をスタートし、途中、旧跡や先生にゆかりのある場所では休憩を兼ねて生徒会の1年生がその地の説明をしました。

12時半ごろには全員が学校に到着し、PTA役員と「三高みんなの食堂」の方が用意してくれた特製おにぎりと豚汁をおいしくいただきました。



部 活 動 等 の 活 動 状 況

令和3年度

香川県高等学校新人大会

【陸上】

女子 棒高跳 2位 坂内祭莉→四国新人大会出場

【柔道】

女子個人 52kg級 3位 石原樹梨奈

【弓道】

男子個人 3位 中川阿須磨

【フェンシング】

男子総合 2位

男子団体 サーブル 3位 (太田、池田、横尾)

エペ 2位 (大鷲、福家、宮脇)

フルーレ 2位 (大鷲、池田、福家)

男子個人 サーブル 3位 太田耀羽

女子総合 3位

女子団体 サーブル 2位 (植村、丸田、穴吹)

エペ 3位 (樋口、中村、神前)

フルーレ 2位 (植村、丸田、樋口、穴吹)

女子個人 サーブル 2位 植村紀香

〃 3位 丸田萌音

全日本アンサンブルコンテスト東讃・高松大会

打楽器3重奏 金賞 (松岡、西尾、宮西)

クラリネット3重奏 金賞 (鏡原、植村、六車)

木管3重奏 金賞 (植村、竹中、鏡原)

サクソ3重奏 銀賞 (田中、森下、北嶋)

金管5重奏 銅賞 (玉越、松村、新名、湊、田部)

全日本アンサンブルコンテスト香川県大会

クラリネット3重奏 銀賞 (鏡原、植村、六車)

香川県高等学校冬季ソフトテニス大会

男子個人 2位 (角、平田)

女子個人 2位 (小田、藤村)

第57回献血運動推進全国大会

厚生労働大臣感謝状「三本松高校」

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞「みんなの食育プロジェクト」

香川ビジネス&パブリックコンペ2021

学生起業奨励賞「思いをつなぐ学食で地域を明るく元気にー今も未来もー」

あおはる応援フェス (オンライン文化祭出場)

ドキュメンタリー動画代表「三高みんなの食堂プロジェクト」

第7回全国ユース環境活動発表大会→全国大会出場

優秀賞「三高みんなの食堂プロジェクト」

令和4年度

香川県高等学校総合体育大会

【ソフトテニス】

男子団体 3位 (朝田、上村、池田、大生、角、平田、松木、青木)→四国大会出場

女子団体 ベスト8 (小田、藤村、四宮、上枝、杉浦、川西、田中、波柴)

【陸上】

女子 棒高跳 2位 坂内祭莉→四国大会出場

【柔道】

女子個人 52kg級 3位 石原樹梨奈→四国大会出場

【弓道】

男子団体 3位 (中川、味浪、橋本、大池、竹本、宮崎、山上)→四国大会出場

女子団体 ベスト8 (大山、真部、大須賀、田中、福地、水口、吉田)

【フェンシング】

男子団体 フルーレ 3位 (大鷲、池田、福家)

男子個人 サーブル 4位 池田涼平→四国大会出場

女子団体 フルーレ 3位 (植村、丸田、樋口、穴吹)

女子個人 サーブル 3位 植村紀香→四国大会出場

〃 4位 丸田萌音→四国大会出場

四国高等学校選手権大会

【陸上】女子 棒高跳 5位 坂内祭莉

香川県高校定時制通信制総合体育大会

【卓球】

男子個人 大風 湊 ベスト4 →全国大会出場

【柔道】

男子個人 90kg超級 優勝 岡部 大

女子個人 63kg超級 優勝 田中瀬奈

63kg級 準優勝 細川竜美

※男子女子ともに個人・団体全国大会出場

全国高校定時制通信制総合体育大会

【柔道】男子個人 ベスト8 岡部 大

全日本吹奏楽コンクール香川県大会

A部門 銀賞

香川県高校生科学研究発表会

【口頭発表部門】

優秀賞 青木淳平、角響介

「3桁のカプレカ数の性質とその証明」

優秀賞 六車謙伸

「東讃におけるフナムシ2種の分布と生態」

【ポスター発表部門】

優良賞 河井大哉、黒川乃碧

「金属板および水溶液の種類による金属樹の析出の仕方」

日本赤十字社 献血運動推進

銀色有功章「三本松高校」

高校生ボランティア・アワード2022→全国大会出場

【ブース発表】

「三高みんなの食堂プロジェクト」

→大会委員長 さだまさし賞

【ポスター発表】

「香川県高校生献血ボランティアグループ」

高校生SDGsコンテスト→全国決勝大会出場

「三高みんなの食堂プロジェクト」

三高生の自主的な活動

■「三高みんなの食堂プロジェクト」

全体代表 3年3組 亀井 遼樹

私たち「三高みんなの食堂プロジェクト」は一言で言うと「生徒が主体となって様々な人と協力し、学校食堂を盛り上げる活動」です。そしてその食堂を中心にして地域を元気にしていくことをめざしています。生徒の中から有志のプロジェクトリーダーが中心となり、現在は50人を超える規模となり非常に有意義な活動ができています。プロジェクトリーダーは食堂の発展のためなら基本的に何をしても良く、校内に畑を開墾し野菜を育てる、SDGsに繋がる新メニューを開発する、地域のイベントでマルシェを出店する等、人によって様々です。プロジェクトリーダー以外の生徒も、食堂の利用や様々な形で応援してくれたり学校全体で食堂を盛り上げようとする意識ができています。また、地域の方々とのさらなる交流も視野に、地域の方々に予約制で食堂を利用して頂けるように準備も進めています。私たちにとってこの活動は、大学で学びたいことを見つけたり、将来したいことを見つけたりと、自分の未来へと繋がる活動でもあるので、さらなる発展を目指し皆で頑張っていきたいと思っています。

さて、8月16、17日にプロジェクトを代表し、1年生2名、2年生2名、そして私の5名で、東京で開催された「高校生ボランティア・アワード2022」に出場しました。このアワードは、さだまさしさんが会長を務める「風に立つライオン基金」が主催しており、今年度は全国からの応募で選ばれた97団体が一堂に会して発表しあいました。各校それぞれブースを設け、ブースを見学するグループとブースで発表する



全国高校生ボランティア・アワード2022

グループに分かれ、それぞれ交代しながら2日間通して非常に活発に交流ができました。ボランティア活動を頑張る高校生の貴重な交流の場となりました。初めてこのような交流の場に立ったことで、人と上手くコミュニケーションを取る力であったり、自ら考えて行動する力には自信ができました。

授賞式では大会委員長さだまさしさんの名を冠する賞を頂くことができ、自分たちの活動がこんなにも評価していただけるものだということを確認し、今後の活動に全校生で取り組んでいきたいと思いました。

我々はこのプロジェクトをさらに発展させさらに地域に根ざし、学びの場になる素晴らしい食堂を作り上げ、そこから地域を元気にしたいと思っています。応援してくださっているすべての皆様に感謝するとともに、今後とも活動へのご理解ご協力のほどよろしくお願いします。



■虎丸ゼミ

<概要>

放課後や休業日に実施する自由参加のゼミ。自分の意思で自分のために参加し、自分自身の充実と経験を高めるために参加する。目的は、主体的に学ぶ経験をすること、広く関心を持ち自ら接する分野を増やし視野を広げること、自分のめざす分野を深く知ることや自分の適性の確認などである令和2年11月に開始し、各分野で活躍しているプロフェッショナルから双方向の話し合いで学び取るゼミとしてこれまで24回実施している。

<実施例>

大学教授による大学での学びや研究についてのゼミ、東かがわ市長とのトーク、本校出身のプロ野球選手、管理栄養士による味についての実習付きのゼミ、東かがわ活性隊隊長の地元の飲食店店主、外務省による外交の現場、日本政策金融公庫のビジネスの基礎、大学生によるアートについてのゼミ、病院で過ごす子供たちを支援するNPO、税務署職員と税理士、シリーズ市役所で危機管理課による防災とまちづくりや市教育委員会による東かがわの英語教育、フラワーアレンジメント、看護系大学に合格した本校3年生によるゼミ、など多様なゼミを開催している。



市長とのトークゼミ

栄養のゼミで味の実験

参加希望生徒は、掲示される案内を見て自分でエントリーする。参加への強制はしないが教員からは勧めていて、しだいに主体的参加が定着してきた。

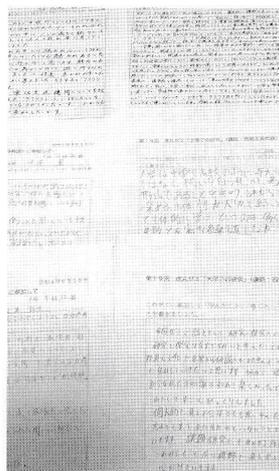


案内資料

運営は、生徒に体験させたいことがある教員がゼミを設定し、担当者となる。固定的な担当者は定めていない。ゼミは60分を基本とし、そのうち3分の1以上を生徒とのディスカッションとするようお願いしている。一度終了した後で、生徒に希望者がいれば講師の状況に応じてさらに延長してもらう。ゼミから学んだこと、得たこと、印象に残ったことそこから考えたことを振り返りシートに記録している。誰かに見てもらうための記録ではなく自分のための記録として残す。

発展的なゼミとして、生徒が講師となるゼミや生徒が講師を依頼し、運営者となるゼミも行った。また、生徒が講師となって地域の人に対して行うゼミも計画している。

ゼミは、授業などと別にして、放課後に実施することで自由度が高く数多く設定できる。参加で



振り返りシート

きなかった生徒も、実施後 Teams に要点を記載して概要を知ることができるようにしている。

<生徒の変容>

参加生徒は、関心があり主体的に参加しているので、会場の席は前から順に埋まり、積極的に質問や意見を出す生徒が増えてきた。生徒にとっては学びを主体的に行うことが標準となりつつある。ゼミへの参加が主体性を高め幅広い見方・考え方への変容に繋がっている。

(生徒の振り返りの一部: 主体性に関する部分)

普段の生活で自分の好きなものや興味のあるものに対して自分で調べたり観察したりしていきたい。研究は失敗して当たり前、もっと自主的に行動して自分で物事を決める。いま、自分のできることを考え、自分から行動していきたい。大切なのは主体性や何回失敗してもあきらめないことだとわかった。研究は自ら問いを見つけ考え解決することであり、自分から学びを深める主体性が大切であることがわかりました。言葉に出して話し合いをすることで東かがわの良さが出てきたことが心に残った。



主体的に学ぶ生徒、大学教授のゼミ

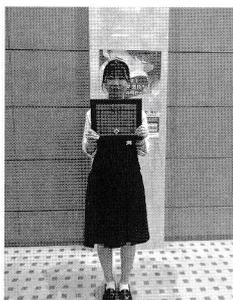
献血推進活動

三本松高校が取り組んでいる献血推進活動が評価され、日本赤十字社より銀色有功賞を授与されました。

8月2日に香川県庁で行われた贈呈式には、「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」の代表を務める3年3組西尾さくらさんが出席しました。日本赤十字社香川県支部長である浜田恵造知事から、表彰状を手渡されました。

令和2年に本校生徒の有志の発案により結成された「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」では、若年層への献血普及のためのさまざまな活動を行っています。

今年度は県下の高校14校が参加し、本校が代表校を務めています。県内各所で行われている献血会場での呼びかけボランティアや、赤十字血液センターで実施される献血セミナーへの参加など、精力的に活動しています。



香川県立三本松高等学校 教育後援基金について

この基金は、三本松高校の生徒の教育活動を支援するためだけに活用する基金です。卒業生、地域の方々など、広く皆さんからのご支援で成り立っています。

趣旨に賛同いただいた方による、自発的なご支援を基本としている基金です。

三本松高校ならではの教育活動ができる環境を作るためにご支援いただいています。用途は、物品や施設に関するものではなく、主として生徒が体験し、経験を積み重ねていくための活動に活用します。三本松高校に入学してよかったと実感してもらえる教育環境をめざしています。三高生がより多くのことを身につけるために主に次のような活動に活用していきます。

・ **学習支援**

自習ルーム（自習室）の運営など

・ **多様な活動支援** 「虎丸ゼミ」「三高みんなの食堂プロジェクト」等の活動支援など

・ **部活動支援**

外部指導者に関する支援など

その他の、生徒の活動に直接かかわる活動の支援

令和3年度から発足させていただきました。従来、同窓会から随時生徒へのご支援をいただいていたのですが、その部分を独立させたものを中心として立ち上げさせていただきました。（奨学金は引き続き同窓会からのご支援です）学校へのご寄付等についても、ご意向を伺ったうえで、基金に入れていただいています。

今後、さまざまな方法でのご支援をいただきたいと考えておりますので、ご理解ご協力をよろしく願っています。

令和3年度 進路状況

（過年度卒業生を含む延べ合格者数）

○国立大学 = 31

静岡大2 島根大1 岡山大1 広島大1 山口大1
徳島大4 香川大11 愛媛大3 宮崎大1
大阪公立大1 兵庫県立大1 下関市立大1
香川県立保健医療大2 高知工科大1

○私立大学 = 213

東海大2 東京農業大2 東京理科大1 法政大1
大谷大6 京都産業大5 京都女子大2
同志社大1 佛教大24 立命館大11 龍谷大5
大阪経済大2 大阪工業大6 関西大10
近畿大13 甲南大1 甲南女子大2
神戸学院大8 武庫川女子大2 岡山理科大10
川崎医療福祉大3 広島工業大8 四国大7
徳島文理大26 高松大9 松山大8 その他38

○短期大学 = 5

武庫川女子短大1 徳島文理大短大部1
香川短大1 高松短大2

○専門学校・各種学校 = 19

国立善通寺看護1 岡山済生会看護専門1
キッス調理技術専門2 穴吹ビジネスカレッジ1
穴吹リハビリテーション2 穴吹動物看護カレッジ1
香川県美容専門2 その他9

○就職関係 = 5

自衛隊 帝國製薬株式会社 日本郵便株式会社
兵庫県警 YAMATOシステム

タイムカプセル開封式のご案内

創立百周年を記念して平成12年9月に、在校生や職員がはがきをタイムカプセルに納めました。その開封式の準備を進めております。

日時等が決まり次第、三本松高校HPでお知らせいたします。

平成13年3月6日 三高新聞より

創立百周年を記念して、生徒会がタイムカプセルを作った。二十年後の自分へをテーマに、在校生や職員、文化祭の来校者が書いたはがき約七百通を詰めて、二〇二〇年の文化祭で開封し、在校生に発送してもらう予定だ。ハガキの他には、二〇〇〇年の世相を反映したものとして、ルーズソックス、携帯電話、プリクラ、カプセルを封印した日の新聞、雑誌数冊も入れた。また、生徒会のメ

創立百周年を記念して、メンバーや先生方の考えた、二十三年後の三高や社会の予想を書いたものも入れてある。生徒会では、創立百周年を記念した生徒会独自の企画ができないかと今回のタイムカプセルを考えた。「今の自分達の思いが残るものにして、後輩たちに伝えたい」ということである。封印されたタイムカプセルは、新しく完成する資料館に展示・保管する。二十三年後、自分あてのはがきが届くのが楽しみである。

20年後のあなたは？
タイムカプセル封印



創立百二十周年記念祝賀会 および大中三高会総会開催のご案内

令和2年より延期しておりました「創立百二十周年記念祝賀会および大中三高会総会」を下記のとおり開催いたします。参加ご希望の方は、下記までお申し込みのうえ、ご来校ください。

なお、今後の状況により、中止する場合は、参加予定者に別途ご連絡をいたしますので、必ず連絡先をお知らせください。

記

日時 令和4年11月5日(土)(受付 15:00～)
15:30～16:00 大中三高会総会
16:00～17:30 創立百二十周年記念祝賀会(お茶とお菓子)
場所 三本松高校 第2体育館(正門入って右)
参加費 1,000円(当日、受付にて集金いたします。)

校内に駐車場はありません。お車での来校はご遠慮ください。

申込締切:10月25日(火)まで

■お申し込み・お問い合わせ

三本松高校同窓会「大中三高会」 TEL&FAX 0879-24-1660(平日8:30～17:00)
E-mail ashitanitakaku@gmail.com(右下のQRコードをご利用ください。)

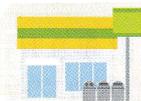
申込内容

①氏名・旧姓 ②ふりがな ③電話番号 ④卒業学校名 ⑤卒業年度

【留意事項】参加当日は、マスクの着用、手指消毒、体温測定にご協力ください。

事務局からのお知らせ

◆会費納入について<年会費2,000円>



A コンビニで
振り込む



B 郵便局で
振り込む



C 窓口で
納入する

※Bで現金振込の場合は、手数料をご負担いただくことになります。

※本部役員の皆様には、従来どおり郵便局のみでの振り込み用紙を同封させていただきますので、お近くの郵便局にて、年会費5,000円をお振り込みください。

【振込先】ゆうちょ銀行 口座 01680-9-6242 名義 大中三高会

◆会報の送付について

今年度より、会報は**会費納入後の2年間分・卒業後6年間**発送いたします。

今後とも皆様から納付された会費は有効に活用させていただきますので、会費納入にご協力をお願いいたします。

なお、会報および同窓会活動につきましては、三本松高校HPに掲載していますのでご覧ください。

◆住所等変更について 住所等の変更は、下記事務局までご連絡ください。

大中三高会報 No.51 / 2022年(令和4年)10月1日発行

香川県立三本松高等学校同窓会 大中三高会

〒769-2601 香川県東かがわ市三本松1500番地1

Tel&Fax 0879-24-1660 E-mail ashitanitakaku@gmail.com

